



職業奉仕月間によせて

地区職業奉仕委員会
豊中RC

委員長 畑田 耕一

1. 職業奉仕を考える

ロータリーの職業奉仕はロータリアン一人一人が例会に出席して他の会員との交流・親睦を通してモラルを高め、日常生活では自分の職業に真剣に取り組み、社員はもとより仕入先や顧客など周囲の人達のモラルを向上させて、業界の手本となり、その業界のモラルを向上させていくことです。クラブの会員一人一人がそれぞれの業界を受け持って、職業奉仕の活動を続けていけば、やがては社会全体のモラルが高まります。ロータリアンは、クラブに対しては自己の職業の代表者であり、ロータリアン以外の人に対しては、日常の仕事を通してロータリー精神を普及する責務を負っているのです。

学校、特に小学校では授業での学習内容が子供の家庭で保護者や家族に伝えられ、さらに、地域社会にも影響を与える可能性が高いのです。ここ数年来、地区職業奉仕委員会が実践をお願いしている小・中学校への出前授業は、子供たちだけでなく、その家族や地域社会の人々にも何かを伝えることが可能です。また、子供

たちはあまり遠くない将来に大人となって、市民の一人となります。ロータリアンが小学校、中学校への出前授業で自己の職業・専門について語ることは職業奉仕の一つの形と考えられます。

2. 出前授業では根本原理を語ろう

出前授業で大事なことは、自分の専門分野の根本原理、哲学を子供たちに伝えることです。小学校では、一人の先生がすべての教科を担当します。自分の専門外のところは、指導要領だけを頼りに授業をすることになりかねません。たとえば、小学校高学年で「プラスチックを知っている？」と聞くと、「燃やすとダイオキシンの出るもの」という答えの返ってくることが多いのです。環境問題への関心を高めることは、もちろん重要ではありますが、プラスチックとは燃やすとダイオキシンが出るものという答えは、たとえそれが事実であったとしても、あまりにもことの本質から離れています。プラスチックの本質は、それが高分子という大きな、細長い糸のような分子から出来て